

1 調査の目的

本調査は、「富士市の広報全般」・「食育」について、市民の意識・評価・要望などを把握することを目的とした。

2 調査の内容

「富士市の広報全般について」・「食育について」

3 調査の設計

- | | |
|----------|--------------------------|
| (1) 調査地域 | 富士市全域 |
| (2) 調査対象 | 富士市在住の満 18 歳以上 80 歳未満の市民 |
| (3) 標本数 | 3,000 人 |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送調査 |
| (6) 調査期間 | 令和 4 年 6 月 13 日～7 月 4 日 |
| (7) 調査機関 | 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所 |

4 回収結果

- | | |
|-----------|------------------|
| (1) 発送数 | 3,000 人 (100.0%) |
| (2) 回収数 | 1,493 人 (49.8%) |
| (3) 有効回収数 | 1,491 人 (49.7%) |

※有効回収数は、回収したが記入のない（または少ない）調査票を除いて集計した数。

5 居住地区別回収率

居住地区	発送数（人）	有効回収数（人）	有効回収率（％）
吉原	94	38	40.4
伝法	159	80	50.3
今泉	113	61	54.0
神戸	55	25	45.5
広見	142	62	43.7
青葉台	129	39	30.2
大淵	121	69	57.0
富士見台	44	22	50.0
原田	50	24	48.0
吉永	77	39	50.6
吉永北	23	14	60.9
須津	104	42	40.4
浮島	9	4	44.4
元吉原	68	33	48.5
富士駅北	148	60	40.5
富士北	128	95	74.2
富士駅南	187	103	55.1
田子浦	212	108	50.9
富士南	243	111	45.7
岩松	154	100	64.9
岩松北	140	38	27.1
鷹岡	170	96	56.5
丘	196	67	34.2
天間	87	35	40.2
富士川	70	48	68.6
松野	77	52	67.5
分からない	—	8	—
無回答	—	18	—
合 計	3,000	1,491	49.7

6 報告書を読む際の注意事項

- 1 各設問の表の中や欄外に記載した回答割合の比率はすべて百分比で表し、小数第2位を四捨五入している。このため百分比の合計が100%にならないことや、複数の合計が合わないことがある。
- 2 基数となるべき回答者数は、nと表示しており、回答比率はこれを100%として算出した。
- 3 1つの質問に2つ以上回答できる設問の場合は、百分比の合計が100%を超える場合がある。
- 4 選択肢の文章が長い場合、グラフ上では省略して表記していることがある。
- 5 分析の軸にある性別は、「その他」の件数が少ないため、グラフへの掲載は省略している（「その他」の回答割合は、219ページ以降の『VI. 結果の数表』を参照）。また、年代は10代の件数が少ないため、20代とまとめて「20代以下」としている。
- 6 分析の軸として用いたライフステージは、次のように分類している。

独身期	18～39歳の未婚者
家族形成期	第一子が未就学児、または40歳未満の夫妻のみ
家族成長前期	第一子が小・中学生
家族成長後期	第一子が高校生・予備校生・大学受験生・短大・高専・大学・大学院・専門学校などの学生
家族成熟期	第一子が学校教育終了
老齢期	60歳以上の人

※ 家族形成期～家族成熟期の子どもがいる人は、いずれも60歳未満の人とした。40代・50代の未婚者、40代・50代の夫妻のみなど、分類されていない層がある。

7 この調査は、無作為抽出により対象者を抽出したので、標本誤差は次式で近似できる。

$$\varepsilon = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

ε : 標本誤差
 n : 標本の大きさ
 P : 回答比率

回答者総数（1,491 人）を 100%とする質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が 50%であるとすると、母集団（18 歳以上 80 歳未満の富士市民全体）の回答比率は 47.41%～52.59%の間であると推定される。

回答比率	標本誤差
50%	±2.59%
60%または 40%	±2.54%
70%または 30%	±2.37%
80%または 20%	±2.07%
90%または 10%	±1.55%